

国際非開削技術協会 (ISTT) 総会報告

平野 美礼

HIRANO Mirei
(一社)日本非開削技術協会
国際部長



JSTTからの参加の様子(左から筆者、金子事務局長)

2021年度の国際非開削技術協会(以下、ISTT、本部：ロンドン)の総会は、マレーシアで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年に続きZoom Meetingsを利用したWeb開催となりました。当協会からは事務局長の金子と国際部の平野の2名が参加しましたので、その内容をご報告いたします。

【開催概要】

開催日時：2021年11月16日(火) 00:00～02:00
(日本時間)

会議方式：Web開催(Zoom Meetings)

出席：世界27協会で、24協会が出席
(1協会につき1票の議決権)

【議事概要】 ※印は、各国代表による議決案件

- (1) 開会の挨拶
- (2) 総会議事次第の審議(※)
→全会一致で承認。
- (3) 2020年ISTT総会議事録の審議(※)
→全会一致で承認。
- (4) ISTT会長挨拶
 - ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、ISTTおよび各国の非開削技術協会の活動が制限されたが、対面型の会議の代わりにWebを多く活用。
 - ・コロナ収束後には、以前計画していた各国の協会への訪問を実現させたい。
 - ・2022年の目標の一つとして、活動が活発な非開削技術協会をよりサポートすることを検討している。

(5) 2020年ISTT年次報告書

- ・ISTTの活動内容と人事、組織構成、委員会情報について報告。
- ・独立監査人よりISTTの運営に特に問題が見当たらなかった旨の報告を受けている。

(6) 委員会報告

① 会員増強委員会

- ・非開削技術を世界に広めるため、新たな加入国を募っている。現在、協会設立の可能性がある地域は、ラテンアメリカ、インドネシア、タイ、ベトナム、インド、湾岸諸国、アイスランドである。2022年10月にヘルシンキにて協議予定。

② 支援金委員会

- ・2021年の地域支援活動として6つの助成金プログラムの申請について議論し承認。2022年は1万米ドルの補助金予算を提案。

③ 技術・教育委員会

- ・新たに2名のISTTフェローを承認(Norman Howell氏、Wout Broere氏)。
- ・2021年は合計10回のISTT教育ウェビナーを開催(事務局注：2021年12月10日には、当協会国際委員会の島田委員長がご講演予定)。
- ・ISTT技術ガイドラインを更新。また、スマートフォン対応のベータ版を作成中であり、ISTTのホームページに掲載予定。非開削技術の分類がより容易に検索可能となる。

④ 普及活動・マーケティング委員会

- ・紙媒体の非開削技術情報誌「Trenchless International」を廃刊とした後、2021年4月から電子版の非開削技術情報誌「Trenchless

Works」を創刊した。このほか、SNS(LinkedIn, YouTube等)を活用したマーケティング戦略を検討。

⑤財務委員会(※)

・2021年はコロナの影響でISTT国際会議・展示会が開催できなかったため収益減。2022年度予算においては、会議・展示会を参集型で開催する前提で、人件費・助成金・旅費交通費の増加を織り込む。

→全会一致で承認。

⑥国際No-Dig委員会(※)

・ISTTの国際会議・展示会については、①開催国がホストになる場合と、②ISTTがホストになる二通りの開催方法があることを紹介。

・2023年はパナマでの開催を検討していたが、予定していた展示会場が取り壊しとなるなどの状況となり断念。新たに設立されたMEXTT(メキシコ非開削技術協会)よりメキシコシティでの開催提案があった。ISTTが主催、NASTT(北米非開削技術協会)協賛する形での開催について推薦された。

→全会一致で承認。

⑦管理委員会

・ISTTの7番目の常設委員会として設立された。定款・細則の定期的な見直し、ISTT運営規則等の監督、国際評議会・理事会・その他委員会の運営を含むISTTの方針検討と手続きを行うことを紹介。

・ISTTの内規文書を入手・アーカイブ化し、更新することを当面の目標としており、各国の非開削技術協会に対しても取り組みへの協力を依頼。

(7) 2022年ISTT国際会議(ヘルシンキ)

・2022年は3年振りの対面型による国際会議・展示会開催に向け9月30日～10月6日のプログラム案を紹介。

(8) 会長諮問委員会

・委員会の活動目的と、メンバーの選出基準などについて紹介。会長から委任された業務に対して、助言・実行する役割を持つ。

(9) 各国の非開削技術協会からの意見

・筆者より、「来年ヘルシンキで国際会議ができる見込みとのこと、JSTTとしても非常に嬉し

く思っている。残念ながら2年連続で国際会議が延期になっており、学生や企業が発表の場を失っている。来年もしコロナが収束しなかった場合、非開削技術の継続発展のためにも、Webもしくはハイブリッド形式(対面+Web)での開催を是非ともお願いしたい。」とJSTT国際委員会からの意見について発言。これについてJari会長より「貴重な意見に感謝する。来春の理事会で是非とも検討したい。」とのコメントがあった。

・他国より、自国で開催する地域規模の展示会の案内があった。詳細はISTTのホームページで公開予定。

(10) 次回開催

・次回、2022年ISTT国際総会は、2022年10月2日ヘルシンキのメッセクスで開催予定。

午前2時過ぎに2021年度国際非開削技術協会総会が閉会。



Zoom Meetingsを利用した各国代表者出席の様子

【おわりに】

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、対面型の会議などについて制約を受ける状況が続いていますが、「来年こそは」と対面型で国際会議・展示会が開催できることを期待する雰囲気の中、議事が進んでいきました。

一方、対面型の開催が困難であってもWebを活用した発表の場をしっかりと確保して頂けるよう、当協会国際委員会よりお預かりした意見をお伝えし、ISTT会長にも好意的に受け止めて頂くことが出来ました。来年以降もJSTTの存在感をしっかりと出せるように尽力して参ります。

ISTTの行事につきましては、JSTT事務局からも随時情報発信致しますので、今後ともご注目頂きますと幸いです。